

V. 研究所図書館

1. 図書館活動

研究所図書館は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、蔵書の約6割が書架から落下するなどの被害を受けた。年度当初はサービスを限定し部分開館とせざるを得なかったが、図書館の総力と研究所職員の多大な協力を得て復旧作業に取り組んだ結果、震災から約1カ月半で全面復旧し、5月連休明けから通常の図書館活動を再開した。

利用者サービスにおいては、2010年度と比較して来館者数が若干延びているものの、利用冊数の減少が続いている。一方、非来館サービスとしてウェブで提供しているデジタルアーカイブについては、2010年度と比較してページ参照数が2.6倍、PDFダウンロード数が6.4倍と大幅に増大した。

図書館間協力においては、国立情報学研究所（NII）のオンライン総合目録データベース（NACSIS-CAT）への新規目録登録数は7,495点で全参加館1,243機関中第6位、図書館間相互貸借（NACSIS-ILL）では他機関への貸出が931冊で全加盟館1,580機関中10位となり、多大な貢献を果たした。

書誌・出版活動については、翻刻史料として『史料 満鉄と満洲事変-山崎元幹文書』（上・下2巻、岩波書店）、文献解題として『東アラブの女性に関する文献解題-シリア、ヨルダン、レバノンの女性労働を中心に-』（高橋理枝編著）、『変動するインドネシア（2006-2010）-政治・経済・社会関連インドネシア語雑誌記事解題』（高橋宗生編著）の3点を出版した。

2010年度から第1回市場化テストとして実施している「アジア経済研究所図書館運営業務」は2年目に当たり、前年度の経験を踏まえて迅速、且つ安定的に運営すると共に、管理業務の効率化、省力化を図った。その結果、実施要項附属の仕様書で定められている数値目標、納期については、ほぼ達成することができた。

2. 資料収集

研究所創立以来、開発途上国の政府刊行物、雑誌・新聞、海外の大学・研究機関の調査報告書、統計資料など現地の一次資料に留意して収集を行ってきた。特に、海外の主要な研究機関、政府機関等と研究所図書館との間で行われている出版物等の資料交換制度は、商業ルートでは入手し難い出版物の収集において重要な役割を果たしている。2011年度末の資料交換先は1,076機関である。

開発途上国の刊行資料については、各国の書店や政府機関から直接購入しているもの及び、海外研究員や海外出張者の協力により、現地で直接収集しているものがある。2011年度に後者の方法により資料収集を行った国は、台湾、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、イラン、トルコ、ブラジル、ベネズエラ、ケニア、ウガンダの11カ国であった。

表 V-1 資料交換の相手機関 (2011 年度末)

地域	国際機関	政府	図書館	研究機関	大学	銀行	企業	各種団体・その他	計	
アジア	16	218	13	93	147	36	1	54	578	
内訳	東アジア	0	48	6	26	39	8	0	4	131
	東南アジア	9	101	4	14	27	12	0	7	174
	南アジア	0	59	1	29	14	10	1	1	115
	中央アジア	0	5	0	0	0	5	0	0	10
	日本	7	5	2	24	67	1	0	42	148
中東・北アフリカ	3	37	2	9	15	29	0	5	100	
ラ米	7	53	1	14	25	39	0	15	154	
アフリカ	4	66	0	4	4	40	0	1	119	
オセアニア	1	10	1	1	10	2	0	1	26	
CIS・東欧	0	5	2	7	2	1	0	0	17	
北米	12	2	1	0	20	1	0	0	36	
西欧	21	0	1	12	9	2	0	1	46	
小計	64	391	21	140	232	150	1	77	1,076	

2011 年度の一般資料および統計資料の受入冊数、累計は表 V-2 のとおり。

表 V-2 2011 年度の資料の受入数及び蔵書数 (単位: 冊)

資料種別	単位	2011 年度受入	年度末統計
洋書 (アジア・アフリカ諸語を含む)	冊	7,116	276,444
和書	冊	1,662	90,446
中国書	冊	1,469	46,716
朝鮮・韓国書	冊	680	23,317
製本雑誌	冊	2,108	73,995
統計資料	冊	3,364	114,442
合計	冊	16,399	625,360
新聞	タイトル	(新規継続) 2	472
雑誌	タイトル	(新規継続) 36	3,628
地図	枚	7	54,118
マイクロフィルム	本	160	86,998
マイクロフィッシュ	枚	0	48,406
ビデオテープ	本	0	445
電子記録媒体	枚	439	5,046

3. 資料整理

2011 年度は合計 17,594 冊 (点) の整理を実施した。主な内訳は、和洋書 9,625 冊、中国語 1,651 冊、韓国語 694 冊、その他のアジア諸言語資料 1,230 冊 (多い順にアラビア語、インドネシア語、タイ語、トルコ語、ベトナム語、ラオ語、ペルシア語、マレー語)、年刊資料 3,918 冊、CD-ROM 等の AV 資料 476 点であった。作成した目録データは、研究所の

蔵書目録データベースへ登録すると同時に、国立情報学研究所（NII）のオンライン総合目録データベース（NACSIS-CAT）へも登録した。特に、NACSIS-CAT への新規目録登録数は 7,495 点、全参加館中第 6 位であった。これは、研究所図書館の迅速な整理と、他機関の非所蔵資料を多数所蔵していることを示すものである。

4. 利用者サービス

(1) 閲覧

2011 年度の研究所図書館の閲覧者数は 5,360 人で、2010 年度を若干上回った。閲覧者を職業別に見ると、大学関係 46.5%、民間企業関係 10.4%、その他 43.1%となっている。閲覧者に占める入館カード使用者の割合は、52.5%であり、来館利用者の約半数がリピーターで占められている。一方、非来館者からも ILL（図書館間相互貸借）を中心に安定的に利用されている。2011 年度の資料複写受付枚数は 151,961 枚で、2010 年度と比べ 12,652 枚増となっている。また貸出冊数と来館者の閲覧利用冊数を合計した図書館資料の利用冊数は 2011 年度 34,449 冊で、2010 年度から減少傾向にある。

表 V-3 閲覧利用状況

	2010 年度	2011 年度
①外部閲覧者数	5,235 人	5,360 人
うち土曜日分	564 人	593 人
②蔵書貸出冊数	10,071 冊	10,486 冊
うち所内	8,291 冊	8,745 冊
うち所外	1,780 冊	1,741 冊
③資料利用冊数	34,937 冊	34,449 冊
④資料複写枚数	139,309 枚	151,961 枚
うち郵送依頼分	8,128 枚	12,149 枚

(2) 施設改善

- ①セキュリティを向上させるため、図書館エントランスの工事を行った。
- ②新聞庫（2 階）が満杯になったことため、新たに 1 階に新聞庫を確保し移動を行った。
- ③館内の配架構成の変更に合わせて、各種サインの更新を行った。

(3) 見学対応

研究所図書館見学は 62 件、559 人（国内 418 人、国外 141 人）で、2010 年度の 65 件、742 人（国内 435 人、国外 307 人）より減少した。

5. 利用者アンケートの実施

図書館では毎年、外部利用者および職員の満足度を調査し、資料サービスの向上のために役立てている。2011 度のアンケート結果は以下のとおりであった。

- (1) 外部利用者アンケート（2011 年 11 月 1 日～12 月 27 日実施）

配布総数：403 通、回収数：274 通、回収率：68.0%

総合役立ち度（役立ち度上位2位の割合）：99.2%

(2) 職員アンケート（2012年1月10日～3月9日実施）

配布総数：192通、回収数：62通、回収率：32.3%

総合役立ち度（同上）：100%

6. 資料・情報相談

開発途上国の経済、政治、社会などに関する具体的な事情または資料について各方面から寄せられる照会に対しては、所内の研究者の協力を得ながら、主に資料整理課が回答を行なっている。2011年度の主な照会・相談件数は表V-4のとおりである。

表 V-4 2011 年度主要紹介相談件数

対象主題	地域 全般	発展途上国 アジア全般	東アジア	東南アジア	南アジア	中央アジア	中東	ラテンアメリカ	アフリカ	その他	照会事項 合計
政治	1	1	21	32	1	4	1	10	43		114
社会		1	5	8	2			19	5		40
経済	7	5	24	70	11	1	3	18	13	2	154
法律		1	1	13				2	1		18
労働		1	2	4	1		1	5		1	15
人口	2	2	3	3	4			2	1	1	18
金融・投資		1	3	4	2			2	3	1	16
財政		1	2								3
援助	8			2	2			2	2		16
貿易・通信・運輸	3	2	3	6	3			1	8	1	27
商業・流通・サービス	3		4	3	2				1		13
環境	1	2	1	5				1	3		13
資源・エネルギー			2	5	3			3	5		18
農林・漁業	1	2	1	11	2			1	7		25
工業・技術			8	13	8				1	1	31
企業			1	5	1				3		10
教育				6						1	7
地理				2	1					1	4
一般・その他	7	4	5	9	2		1	27	21	9	85
利用・蔵書案内										316	316
合計	33	23	86	201	45	5	6	93	117	334	943

7. 新着アラートサービス

新着アラートサービス（利用者に対して希望する特定地域・分野に関する新着図書・雑誌論文の書誌情報をEメールで無料配信するサービス）の登録者数は、2012年3月末で1,251人となり、2011年3月末に対して51人の増加となった。

8. 資料展示会・講演会

研究所図書館の利用促進と地域への知的貢献をはかるため、研究所図書館が所蔵する資料を3回にわたって展示した。資料展示会の内容は以下の通りである。

- (1) 2011年8月「残留孤児・引揚者関連資料」(ミニ展示)
- (2) 2011年9月「開発途上国のエネルギー問題」(資料展、講演会)
- (3) 2012年2月～3月『史料 満鉄と満洲事変』出版記念企画—山崎元幹文書と満洲事変—(資料展、講演会)

9. 研究支援

(1) ILL (図書館間相互貸借)

職員からの依頼により、外部図書館から523冊の資料を借り受け、246件の論文等の複写取り寄せを行った。

(2) 情報リテラシー研修

図書館利用説明会を全職員、アジ研新入職員、IDEASの日本人研修生および外国人研修生、客員研究員に対してそれぞれ実施した。また、全職員向けに新規導入のMergent、Datastream等のデータベース、グローバルILL説明会(北米および韓国の図書館からの文献複写取り寄せサービス)を開催した。

10. デジタルアーカイブ

AIDE(アジア経済研究所デジタルアーカイブ)の登録数は、図書8冊(PDF77点)、雑誌22冊(PDF288点)で、これまでの累計は図書723冊(PDF6,504点)、雑誌85冊(PDF1,126点)の合計808冊(PDF7,630点)となった。ARRIDEの登録数は、論文79点で累計875点となった。「近現代アジアのなかの日本」については、科研費「1910～30年代における日本の中国認識：華北地域を中心に」の協力を得て、興亜院出版物書誌データ約800点および、所蔵データ1,300点を追加した。

デジタルアーカイブのアクセス数は、2,320,310ページ、ダウンロード数は876,166件で、2010年度と比較して、それぞれ2.6倍、6.4倍と大幅に増大した。

11. 書誌・出版活動

(1) 雑誌記事索引の作成

雑誌記事索引14,601件の採録を行った。

表 V-5 雑誌記事索引採録統計

言語種別	英語	スペイン語	ポルトガル語	フランス語	日本語	中国語	コリア語	アラビア語	インドネシア語	合計
採録件数	6,928	611	84	239	2,108	3,955	397	208	71	14,601

(2) ウェブサイトへの新着資料の登録

研究所図書館の受入図書リスト及び雑誌記事索引を毎月継続的にウェブサイトアップした。

(3) 出版物の刊行

① 文献解題

『東アラブの女性に関する文献解題-シリア、ヨルダン、レバノンの女性労働を中心に-』（高橋理枝編著）、『変動するインドネシア（2006-2010）-政治・経済・社会関連インドネシア語雑誌記事解題』（高橋宗生編著）の2冊を無料出版し、ウェブでも全文公開した。

② 翻刻資料

図書館の貴重資料である「山崎元幹文書」を翻刻・編纂し、『史料 満鉄と満洲事変-山崎元幹文書』（上・下2巻）として岩波書店から刊行した。

1.2. 資料の保存

2011年度は東日本大震災で落下破損した約3,800冊の図書のうち約1,300冊の補修を実施し、380冊を再製本した。2005年度以降継続している脱酸処理は、1900年代前半までの希少書を中心に766冊を選定し、ブックキーパー法の大量脱酸システムによって実施した。

1.3. 図書館間協力

(1) 関係機関との協力・連携

図書館間協力・交流の推進のため、専門図書館協議会、アジア情報関係機関懇談会（国立国会図書館主催）、千葉市図書館情報ネットワーク協議会、法律図書館連絡会などの活動に参加するとともに、新たに千代田区立図書館および浦安市立図書館と協力関係を築き、相互貸借制度を確立し、非来館型サービスの拡充を行った。

(2) 図書館間相互貸借・複写（ILL）

国立情報学研究所 NACSIS-ILL システム、専門図書館協議会参加館間の貸借を合わせた貸出受付点数は1,026冊、複写受付件数は797件となった。このうち NACSIS-ILL による他機関への図書の貸出冊数は931冊を占め、加盟している1,580館中10位で貢献度が高い。

(3) レファレンス協同データベース

国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に引き続き参加し、本図書館が提供したレファレンスデータが59,912件（2011年）参照され、礼状を受けた。

(4) 国際会議等への参加

①「フィリピン専門図書館協会第1回全国大会（1st National Congress of Special Libraries of the Philippines）」への参加および論文発表。

②リポジトリのシステムや技術的問題の解決に取り組むワークショップ（招待制）「DRF 技術ワークショップ」への参加。

③京都大学東南アジア研究所の共同研究「東南アジア逐次刊行物に関する情報の発信研

研究会」へ研究協力者として参加。

1 4. 資料・情報委員会

資料・情報委員会では、情報発信分科会、資料保存分科会、電子図書館分科会の3分科会を設けて活動した。

(1) 情報発信分科会

『アジア研ワールド・トレンド』図書館特集「アジア地域研究と雑誌—『コア・ジャーナル』を語る—」(2012年3月号)の企画・立案を行った。また、文献解題2点の出版工程管理、翻刻資料の編集・校正を実施した。さらに、図書館案内各種パンフレットの整備と改訂を行った。

(2) 電子図書館分科会

AIDE(アジア経済研究所出版物デジタルアーカイブ)のSEO対策(GoogleやYahoo!などの検索エンジンの検索結果に研究所のウェブサイトを上位表示するためにウェブサイトを最適化する手法)について検討し、改善を行った。また、図書館ウェブサイトへの参考図書リスト・紹介ページの追加について企画・立案し、作業に着手した。

(3) 資料保存分科会

東日本大震災で落下破損した資料の選別、脱酸処理対象の希少書資料選定、専門家による補修講習会を実施した。

1 5. 市場化テスト

(1) 第1回市場化テスト(官民競争入札)の実施と評価

2009年度に実施された「アジア経済研究所図書館運営業務官民競争入札」でアジア経済研究所図書館が落札し、第1回市場化テスト対象業務(2010年度～2011年度)を自ら運営した。第174回入札監理小委員会(2011年6月)にて「アジア経済研究所図書館運営業務」の実施状況(2010年度)の報告を行った結果、「確保されるべき質としての利用者の満足度は目標を上回り、各業務について仕様書に基づき実施された。」と概ね高い評価を得た。

2012年度の業務実施においても、数値目標(図書配架冊数15,000点以上、雑誌記事索引採録件数12,000件以上など)や納期(各種資料の配架までの日数、雑誌記事索引の採録から配架までの日数、ILLへの迅速な対応など)が、東日本大地震による復旧作業の影響にも関わらず、ほぼ達成することができた。

(2) 第2回市場化テストの準備

2011年6月から第2回市場化テスト(2012年～2014年)を目的とした官民競争入札実施にむけて、実施要項、仕様書作成の準備を進めた。9月以降、研究企画部によって上記の入札手続が進められる一方、図書館では応札者として入札に向けての企画書作成の準備を行った。その結果、アジア経済研究所図書館が落札し、引き続き第2回市場化テスト対象業務を運営することとなった。